

学校法人光華女子学園
京都光華女子大学短期大学部
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日
財団法人短期大学基準協会

京都光華女子大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 光華女子学園
理事長名	阿部 敏行
学長名	一郷 正道
ALO	土谷 長子
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	京都府京都市右京区西京極葛野町38

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
ライフデザイン学科		185
こども保育学科		80
	合計	265

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

京都光華女子大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 21 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 19 年 7 月 1 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、昭和 14 年に東本願寺裏方・大谷智子によって、親鸞の教えに基づく「仏教精神による女子教育」を建学の精神として設立された学校法人光華女子学園に属する短期大学である。その教育理念は学園名称と「真実心」という校訓によって学園設置のすべての学校に共有されている。当該短期大学は、昭和 19 年開設の光華女子専門学校を源とする 60 年以上の伝統を有する短期大学である。

平成 18 年度に時代の要請と学生のニーズにこたえるため、生活環境学科をライフデザイン学科に改組し、同時にこども保育学科を新設した。各学科は、一方が学生の多様な資格取得及び就職希望に応ずるための多彩な教育課程を特徴とし、他方が保育者養成に特化するという、非常に性格の異なる学科構成となっている。各学科は、各々の特徴や入学者の特性及びニーズを踏まえ、入学から卒業、就職まで充実した教育と学生支援を行っており、高い資格取得状況や就職率など着実に成果をあげている。また、多項目にわたる授業アンケートを実施するなど授業改善への努力も十分にみられる。

併設の四年制大学との共用ではあるが、充実した施設設備を有しており、携帯電話による図書検索システムや就職情報の提供など、先進的な学生サービスの取り組みもみられる。

研究活動については、教育実践及びその成果を紀要などに意欲的に発表している。また、当該短期大学をあげて科学研究費補助金の申請件数を増やす努力をしている。

当該短期大学の社会的活動は、社会の多様なニーズにこたえるため、エクステンションセンターが運営する公開講座、教養講座、キャリアアップ講座、開放講座が多数開講されている。学生の地域貢献活動、ボランティア活動も着実に成果をあげ、当該短期大学として、積極的に評価し支援する体制が整っている。

管理運営面においても、理事長、学長、短期大学部長などの責任ある人々が、高い意識を持って、学園及び当該短期大学の運営、並びに経営・教学両面の改善強化に適切かつ積極的にリーダーシップを発揮しているのが認められた。財務状況は、短期大学部門においても、学園全体においても健全に推移していると認められる。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 小冊子『「建学の精神」と教育方針』によって建学の精神や教育目的、あるいは各設置校の教育目標などが学園全体の教職員に共有化され、さらに行事などを通して十分に浸透させている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館については、教育理念に基づき、仏教図書が充実している。また、「京都学」関係の古文書の収集を行っている。いずれも、京都にある仏教系大学としての個性を發揮する試みである。また、携帯電話や自宅からオンライン蔵書目録(OPAC)にアクセスできるなど、検索システムを身近にし、図書館利用をスムーズに行えるように配慮している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 就職支援について、学生キャリア支援センターが中心となって、積極的に取り組んでいる。特に、携帯電話を利用したシステムなど、現代の学生のニーズにこたえる手法を取り入れている。タイムリーな求人情報が入ることによって、学生の就職に対する意欲を高める効果が期待できる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 学生と教員による、足の不自由な人のための京都散策福祉情報地図「はーとふるまっぷ」の作成は、地道で継続的な社会福祉活動として認められる。
- 海外の提携大学における長期語学留学制度があり、毎年学生を派遣している。これは、特に多様な資格や進路を目指すライフデザイン学科にとって大切なことである。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 事務処理業務の改善は、学園の将来ビジョン「光華リバイバルスキーム 70 (KRS70)」を策定し、意欲的に取り組んでいる。

評価領域Ⅸ 財務

- 学校法人及び短期大学は、中期的な経営基盤強化の方向性を示す「光華ビジョン21」から発展した「GAIN」(Growth And INnovation 成長と改革)を当初予算策定時のガイドラインとすることで、毎年度の事業計画と予算を、関係部門の意向を集約しつつ、適切な時期に決定している。また、決定した事業計画と予算は速やかに関係部門に伝達している。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域(合・否)と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスの記載内容を充実させ、学生にシラバスを活用させる工夫が望まれる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 社会人学生の受け入れに対して、社会人学生の学習を支援する体制の整備が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学は、昭和 14 年に東本願寺裏方・大谷智子によって設立された学校法人光華女子学園に属する短期大学であり、その歴史は昭和 19 年開設の光華女子専門学校にまでさかのぼることができる。大谷は真宗大谷派裏方として、親鸞の教えに基づく「仏教精神による女子教育」を建学の精神とした。建学の精神・教育理念は学園名称「光華女子」及び校訓「真実心」によって明確に示されている。それは、教職員必携の小冊子などによって学園全体で共有化されており、様々な方法で学生にも浸透させるようにしている。当該短期大学の具体的な教育目的・教育目標も建学の精神にのっとって設定され、女子のみの短期高等教育に、またライフデザイン学科及びこども保育学科にふさわしいものである。各学科は平成 18 年度に改組、新設によって設置されており、その過程で教育目的・教育目標も多く議論を経て新たに設定されたものである。

評価領域Ⅱ 教育の内容

当該短期大学は平成 18 年度に生活環境学科をライフデザイン学科に改組するのに際して、本協会から地域総合科学科の適格認定を受けており、同時に新設されたこども保育学科は文部科学省、厚生労働省から幼稚園教諭、保育士養成校として課程認定を受けている。ライフデザイン学科は学生の多様な学習、就職ニーズにこたえるために人文系、理系、ビジネス・情報系と多岐にわたる 12 の専門フィールドが用意されており、様々な資格取得の道が開かれている。教育内容は絶えず学生のニーズに応じて見直され、平成 20 年度からの新分野が複数みられる。これは、中身の濃い授業アンケートの実施やファカルティ・ディベロップメント (FD) 活動など教育内容、教育方法改善への意欲的な取り組みの結果であると評価できる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教育の実施体制は、いずれも十分に整備されており、良好である。教員数は短期大学設置基準を満たしており、それに占める教授の割合も適正である。各々短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有している。採用、昇任は「教員資格審査基準」に基づき、「教員資格審査委員会」にて審査を行っている。「教員評価制度」もある。校地・校舎の面積については、教育環境として適切である。講義室、演習室、実験・実習室、また、パソコン教室、マルチメディア教室なども整備されている。図書館の広さ、蔵書数、閲覧席などは、十分確保されている。年間の図書購入予算は十分にあり、購入図書選定システムや廃棄システムが確立している。また、自宅からも検索が行えるようなシステムや携帯電話による検索システムも整備されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

平成 20 年 3 月にライフデザイン学科、こども保育学科とも初めての卒業生を出した段階であるので十分な評価はできないが、第 1 期生の資格取得や編入学、あるいは専門就職の状況からみれば教育目標はほぼ達成されたといえる。ライフデザイン学科で退学者が若干目立つなど、多様な学生を受け入れる際の課題は見受けられるが、いわば 3 年目の若い学科として、教職員が受験生や保護者、高等学校教員の評価を得るために教育目標達成に向けて意欲的に努力している様子がみてとれる。卒業生や就職先からの評価も積極的に聴こうとする姿勢がある。戦前の女子専門学校からの長い伝統と新しい光華の短期大学教育を築こうとする意欲とがうまくかみ合えば、今後更に教育効果が高まり、目標達成度もあがることが十分期待できる。

評価領域Ⅴ 学生支援

入試を公正かつ正確に実施するシステムが整っている。入学手続者に対し入学までに授業や学生生活について、小冊子『合格者の皆さんへ』、入学前説明会、レポートなどによって情報を提供している。入学者に対し、通常のオリエンテーションだけでなく、2 年生による新入生研修があり、大学生活をより身近なものとするような工夫をしている。また、学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制として、クラスアドバイザー、学生相談室、保健室、「何でも相談窓口」といった複数の窓口があり、それらが連携をとって行っている。生活支援のための組織として「学生サポートセンター」がある。学生の就職支援のための組織として、「学生キャリア支援センター」と「学生生活委員会」があり、適切に活動している。「学生キャリア支援センター」では、「携帯電話にタイムリーな求人情報を提供」といった、今日的な手法を取り入れるなど、積極的な就職支援を行っている。具体的な支援活動として、就職支援プログラムを 1 年生から実施している。

評価領域Ⅵ 研究

論文発表、学会活動、国際会議出席など、教員の研究活動は十分に行われている。教員

各個人の研究活動の状況は『人と研究』、「教育・研究活動報告書」を通して公開している。科学研究費補助金などの申請・採択、研究費の外部からの調達について、平成 17、18、19 年度の申請件数は合計 5 件あるが、採択の実績はない。ただし、それ以前には採択の実績を有している。また、現在は当該短期大学をあげて申請件数を増やす努力をしている。教員の担当授業科目に関する研究や教育実践及びその成果についての報告は、紀要における論文発表や FD 活動を通して意欲的に行われている。教員の研究にかかわる経費として個人研究費などの研究支援制度が整っている。また研究経費についての規程が整備されている。教員の研究成果を発表する機会として『京都光華女子大学短期大学部研究紀要』を発行しており、これまで 45 集を数える。教員に対しては、個人研究室が整備されている。また学科の共同研究室がある。教員の研究日（自宅研修日）は、週 1 日確保されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

当該短期大学が保有する知的財産を社会に還元することを使命ととらえ、社会的活動が意欲的に行われている。社会の多様なニーズにこたえるため平成 17 年に開設したエクステンションセンターが運営する、公開講座、教養講座、キャリアアップ講座、開放講座が多数開講されている。学生の地域貢献活動、ボランティア活動も着実に成果をあげ、当該短期大学として、積極的に評価し支援する体制が整っている。国際交流・協力への取り組みも積極的に展開されており、留学生や海外提携校の短期研修生の受け入れ、海外留学の制度も整備されている。教職員の国際交流にも実績をあげている。

評価領域Ⅷ 管理運営

学校法人の管理運営体制は、私立学校法及び寄附行為に基づいた組織が確立しており、管理運営における理事会及び評議員会など相互の機能的役割が明確になっている。学校法人においては理事長のリーダーシップが発揮され、理事会・評議員会は寄附行為に基づいて定期的開催され、また監事は寄附行為の規定に基づいて適切に業務を行っている。短期大学においては学長のリーダーシップの下に、教授会が規程に基づいて適切に運営され、審議機関として十分に機能している。教授会の下に、各種委員会が置かれ、規程に基づいて適切に運営されている。事務局は大学と一体化されているが、諸規程に基づいて適切に業務を遂行している。教職員の人事管理は、就業規則など諸規程が整備され、職員の健康管理、就業環境改善及び勤務時間の遵守などにも配慮がなされており、管理運営全般について組織や設備などは十分整備され、業務も適切に遂行されている。

評価領域Ⅸ 財務

経営基盤強化の方向性を示す「GAIN」を当初予算策定時のガイドラインとすることで、毎年度の事業計画と予算の策定を行い、決定した事業計画と予算は速やかに関係部門に伝達することで予算執行の適正に努めている。財務情報の公開については、財務書類閲覧規程に基づき、ステークホルダーに対し閲覧に供しており、財産目録・貸借対照表・収支計

算書、事業報告書及び監事による監査報告書はウェブサイトにも掲載されている。財務運営は学校法人会計基準に則した処理が適正に行われており、資金維持及び余裕資金も一定の確保がされており、経営状況・財務状態は健全に推移している。

評価領域X 改革・改善

当該短期大学の教授会委員会として「自己点検評価委員会」が設置され、定期的な自己点検・評価、報告書の作成、活用について担当し、実施体制は確立している。また、併設四年制大学を含めた全学的なFDを担当する組織として「教育内容・方法等改善研修委員会」が設置され、改革・改善に向けた全学的取り組みが行われている。今回が初めての第三者評価であり、相互評価の実績がないが、「自己点検評価委員会」が担当する計画で、取り組みへの努力が期待できる。